

留学報告書 II (2021 年度留学生)

塾内在籍校・学年(派遣時)	慶應義塾高等学校 3 年
留学先校名	Phillips Academy Andover
留学期間	2021 年 9 月 から 2022 年 6 月まで

留学を振り返って

留学先では、期待どおりの生活を過ごせましたか？

Andover での 1 年間は自分が想定していた以上の学びや経験を私にもたらししてくれました。留学して良かった点を挙げたらキリがありませんが、総じて述べるのであればとても充実していたということです。日常生活から、スポーツ、課外活動、そして学業の全てにおいて私が今まで経験したこと、学んだことのない側面を Andover は持っていました。寮生活での毎日、経験のあるスポーツに思い切り打ち込め、また未知の競技に挑戦できたこと、今まで勉強したことがなかった分野を学ぶことができ、また多くのディスカッションベースの授業を通して考え・表現する力を学べたことなど、Andover での日々は常に私に新しい出会いや挑戦を提示してくれ、そのおかげで大きく成長できたと感じています。また、何よりも世界中から集まっていたかけがえのない友人たちと出会うことができ、そして時間を過ごすことができました。

クラブ活動や課外活動など、学業以外の活動について教えてください。

スポーツは 3 つのスポーツをプレイしました。

秋は Intramural Soccer というサッカーを楽しむというようなスポーツを取りながら、夜の時間でアイスホッケーの Varsity の練習に参加していました。私自身は実力不足な部分がありましたが、どうしてもレベルの高いアメリカのホッケーを経験したかったので、参加させてもらいました。

冬は Junior Varsity でアイスホッケーをプレイしました。チームの主力として試合でも多く起用していただき、シーズンを通して非常に良い経験ができました。

春には、やったことはありませんでしたが、Cycling をやってみました。私にとっては初めての個人競技でしたが、練習を重ねて、最後のレースでは良い結果を出すことができました。とても楽しかったです。課外活動としては、Andover や他のボーディングスクールに在籍している日本人たちと一緒に、より多くの日本人学生たちがボーディングスクールに興味を持ってくれるようにするという目的のもと、BSAJ という団体に所属していました。また、他にも History Club(世界中の歴史について週一で議論したり話し合うクラブ)や Psychology Club(心理学をレクリエーションや文献を通して学んでみようというクラブ)に参加していました。

ルームメイトはどのような方でしたか？(1 人部屋だった場合は、同じ寮の友人について教えてください。)

僕のルームメイトはアメリカ人のアメフト推薦の Post-Graduate の子でした。

物凄く体が大きく、今まで出会った人の中で一番大きいくらいなので、最初は慣れない部分もありました。また、彼はニューヨーク生まれニューヨーク育ちだったので、僕が今まで友人として接したことのないタイプの人でした。しかし、一緒に部屋を共有し、会話し、打ち解けていくうちにすごく優しく、趣味などで共通点も見つかり、以降はとても良き友人、ルームメイトとして過ごすことができました。

学業について

各授業について授業の内容・進め方・課題・試験・日本との比較などについて触れながら記入してください。

English、History、や Philosophy の授業はどれも Reading、Class Discussion、Essay がメインでした。進め方としては、宿題として、本を読んでもらうように言われ、またその読んだ部分について自分の感想や考えをまとめてくるように言われます。そして授業ではその読んだ内容、考えた内容を踏まえて Class Discussion をします。特に Philosophy の授業はこの部分にかなり重きをおいており、75 分間全部が Class Discussion で終わることも多々ありました。先生方は主に生徒に対して考える種子になるような疑問を投げかけたり、ヒントとなる文献や動画を教えてくれたり、また先生も議論に参加して軌道修正をしたり、より深い議論にしてくれたりします。

これらの授業では試験はエッセイやプレゼンテーションがメインでした。日本で言うテストのようなものはこれらの科目では受けませんでした。基本的には、Class Discussion や Reading から自分が学んだこと、また自分で築き上げた考え方やアイデアを元に先生がくださる質問に答えるエッセイを書くというものでした。（これがプレゼンテーションであったこともありました）。

一方、Computer Science の授業は主に実技がメインでした。先生がプログラマー的な思考やアルゴリズムを教えてください、それを練習問題を通じて自分のものにし、そしてその知識を応用させてプロジェクトを完成させるというものでした。具体的には1週間の練習期間。そして3週間のプロジェクトのサイクルを1年間通して何回もこなすというものでした。こちらもペーパーテストは一度もなく、逆にただプログラミングするだけではなく、アルゴリズムに関する考え方や Computer Science という学問そのものの問題点などについて議論する場などもありました。こちらの授業は課題はプロジェクトを完成させるという単純なものでしたが、それがかなり大変でたくさんの時間を費やしました。

今後について

この派遣留学を通して、自分自身にどのような変化があったと感じていますか。

今回の留学で自分は大きく成長できたと感じています。

9月に初めて Andover へ行き、授業を受けていた最初の頃は本当に大変でした。周りの生徒たちが当然のように自分の意見を的確にかつ説得力を持たせながら述べている中、僕は一回の授業で一回簡単な発言をするので精一杯でした。確かに英語力という不利な点があったことは否めませんが、それを加味したとしても大きすぎる差を感じました。どんなに時間をかけて課題の本を読んで、準備万端だと思っても、いざそれを議論の中で自分の意見として、誰かの意見に反論として提示するとなると、自信がなくなるということも何度もありました。それでも毎日授業で同じことを繰り返し、日々課題の本を読み、その内容を分析し、自分の中に落とし込むということを繰り返していくうちに少しずつ発言できるようになっていきました。最初の頃は議論の争点にすらならないような発言しかできませんでした。時間が経つとしっかりと議論の対象になる意見を提示できるようになりました。春学期の授業では躊躇などほとんどなく積極的に意見を述べることができ、常に議論の輪の中に自分がいたと感じています。今留学を終え、客観的にこの違いを見てみると、留学前と後で大きく変わることができたと感じています。

勉学だけでなく、スポーツも高いレベルでホッケーをし、新しくサイクリングに挑戦したりして、今までにない経験を沢山することができ、そこから沢山の成長することができました。

また、1年間寮生活をして、世界中から集う友人たちと毎日過ごし切磋琢磨できた経験は、自分を人として大きく成長させてくれました。

今後の派遣留学生へのアドバイス

(事前に日本で学習しておいた方がよいことや、用意しておいた方がよいことがあればお知らせください)

確かに Andover での課題の量はかなり多く、私のように英語を外国語として勉強してきた方にとっては、他のネイティブの人たちに比べてかなり宿題に時間がかかることになると思います。しかし、留学が決まってからの半年弱で英語が飛躍的に伸びるということはあまりないと思うので、英語の面では単語量を増やしたり、英語を聞いて耳を慣らしておく程度で大丈夫だと思います。

それよりも、留学期間は本当にあつという間ですので、派遣前には是非自分の派遣先の学校のことを調べたり、どんな授業を取ることが出来るのかなどを確認したりして、自分がいざ留学したときにどういうことをしたいのかを考えておくと、留学がより有意義なものになると思います。

以上

